

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K01141

研究課題名(和文)カリキュラム・マネジメントにおける学校長の役割のモデル化とポートフォリオの開発

研究課題名(英文) Modeling the Principal's Role in Curriculum Management and Developing a Portfolio

研究代表者

島田 希 (SHIMADA, Nozomi)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：40506713

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果として次の2点を挙げる事ができる。まず、カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割について、カリキュラム・リーダーシップ論にもとづいてモデル化したことである。次に、そのモデルにもとづいて、「カリキュラム・マネジメントを推進する校長のためのポートフォリオ-カリキュラム開発の充実のために-」を開発したことである。なお、開発したポートフォリオについては、カリキュラム・マネジメントを推進しようとしている校長に配布し、その普及につとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

まず、本研究を通じて、カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割の特徴が明らかになった。次に、カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割のモデル化を図ったことにより、その全体像や役割間の関連性がより明示された。さらに、それをもとに、開発した「カリキュラム・マネジメントを推進する校長のためのポートフォリオ」には、校長としてカリキュラム・マネジメントの軌跡を蓄積することができる。また、校長が果たす役割について解説した小冊子が添付されており、教材としても活用可能である。学術研究の成果の学校現場への還元という意味において、ポートフォリオの開発は社会的意義があると言える。

研究成果の概要(英文)：Our research findings are summarized in the following two points. First, we developed a model for the role of the principal in curriculum management. The model is based on curriculum leadership theory. Second, based on the model, we developed "A Portfolio for Principals Promoting Curriculum Management: For the Enhancement of Curriculum Development". The developed portfolios were distributed to principals who are trying to promote curriculum management, and efforts were made to promote their use.

研究分野：教育工学

キーワード：カリキュラム・マネジメント カリキュラム・リーダーシップ 校長 ポートフォリオ

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、すでにカリキュラム・マネジメントを活性化・充実させる必要性がさまざまに指摘されていた。こうした動きと連動しながら、カリキュラム研究の領域では、2000 年前後より、カリキュラム・マネジメントやカリキュラム・リーダーシップに関する知見が蓄積されており、それらでは、カリキュラム・マネジメントに影響を及ぼす要因として「リーダーシップ」に言及されていた。また、校長の役割やリーダーシップに関しては、学校経営の領域においても研究知見が蓄積されていた。

しかしながら、これらの先行研究では、カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割の重要性が指摘されたり、その具体的な様相が明らかにされたりしていたが、カリキュラム・マネジメントにおいて校長が果たしている役割についての全体像の把握やそのモデル化はなされておらず、さらなる研究の必要性があると考えられた。

また、校長がカリキュラム・マネジメントにおいて役割を果たすためには、現状を把握したり、記録したりするためのツールが必要である。しかしながら、それまでに開発されているツールは、カリキュラム・マネジメントのいくつかの段階、具体的には、点検・評価の段階において限定的に活用できるものにとどまっていた。つまり、カリキュラム・マネジメントのプロセス全体、より具体的には、自校の実態把握・計画・実施・評価・改善において、継続的に活用できるツールにはなっていないと考えられた。加えて、各学校におけるカリキュラム・マネジメントを中長期的に継続・発展させていくためには、その進捗を点検・評価するとともに、各年度における取り組みの記録を蓄積していくことが不可欠であると考えた。それを実現するツールとして、ポートフォリオという形式が適していると考え、その開発に取り組むこととした。

2. 研究の目的

上記 1 で述べた背景や先行知見の課題をふまえた上で、本研究の目的として、以下を設定した。まず、カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割の実態を把握することとした。次に、それをふまえて、カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割をモデル化することとした。さらに、校長がカリキュラム・マネジメントにおいて役割を遂行していくことを支援するためのツールとして、ポートフォリオを開発することとした。

3. 研究の方法

上記 2 で述べた目的をふまえた上で、以下の方法により研究をすすめた。

(1) カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割に関する文献レビュー

カリキュラム研究、学校経営研究のうち、カリキュラム・マネジメントや校長のリーダーシップに関する国内外の先行知見をレビューし、研究動向を把握した。

(2) カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割に関する国内外での調査

①国内におけるインタビュー調査

特色あるカリキュラムを開発している小学校や中学校の校長を対象としたインタビュー調査を実施した。インタビュー調査に際しては、まず各校が作成している研究紀要等の資料やホームページの情報をもとに、当該校の「学校を基盤としたカリキュラム開発（School Based Curriculum Development :SBCD）」の概要を把握した。その上で、各校の校長に対して、半構造化インタビューを実施した。なお、本研究において、カリキュラム・マネジメントは、SBCD と重なるところがある営みであると位置づけしており、さらに言えば、SBCD をより包括的なものとして捉えている。

インタビューにおける質問項目は、各校の SBCD やカリキュラム・マネジメントの概要、そこでの校長のアクションやその意図であった。インタビュー実施時には、IC レコーダーを用いて音声データを収集した。分析に先立ち、校長へのインタビューにおいて収集した音声データをプロトコル化した。その上で、カリキュラム・リーダーシップ論にもとづいて校長を含むリーダーの役割を示している木原（2009）のモデル（図 1）を枠組みとして用いて、分析を行った。

②国内における質問紙調査

ある地域の幼稚園長、小中高等学校長 540 名を対象とした質問紙調査を実施した。その内

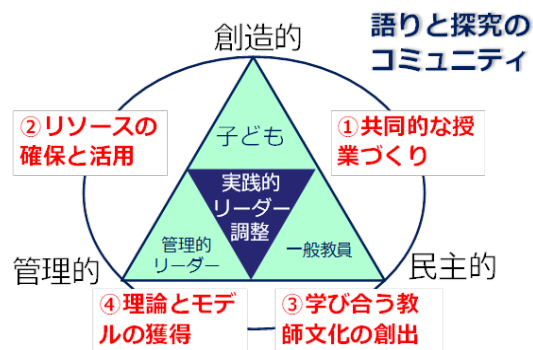


図 1 カリキュラム開発におけるリーダーシップグループの役割（木原 2009 p.70）

訳は、幼稚園長 53 名、小校長 287 名、中校長 130 名、そして高等校長 70 名であった。上記は、教育センターによる管理職を対象とする研修参加者であり、学校園長が果たすべき SBCD のための役割遂行（学校園長の役割）や役割遂行に資する学校園長としての学びの推進（学校園長としての学び）についての質問項目に回答してもらった。なお、質問項目については、島田・木原（2018）や島田・木原（2019）をもとに作成した。これらに関わる各質問項目の内容に関して、自身の状況にあてはまる程度を 4 段階で回答してもらった。

③国外における観察およびインタビュー調査

今日的な教育課題を取り上げつつ、特色あるカリキュラムを開発している英国の小学校を対象として調査を実施した。まず、各校のホームページに掲載されている内容や事前に入手することができた資料をもとに、当該校のカリキュラムおよびその開発の概要を把握した。その上で、2018 年 3 月に、各校の校長、リーダーシップチームの教師や一般の教師を対象としたインタビューを実施した。そこでは、各校における SBCD および開発されたカリキュラムの概要、そのプロセスにおいて果たしている役割について聞き取った。また、翌 2019 年 3 月にも英国を訪問し、継続的かつ追加的な調査を実施した。2018 年および 2019 年いずれの調査においても、インタビューとあわせて、各校において、授業および校長やリーダーシップチームの教師たちの仕事の様子を観察した。インタビューのデータは IC レコーダーあるいはフィールドノートに記録した。観察のデータについては、フィールドノートおよび写真に記録した。

(3) カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割のモデル化にむけた分析

カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割をモデル化するにあたっては、上記 (2) の調査で得たデータを用いて分析を行った。まず、図 1 のモデルをもとに、実践的リーダーが果たす役割との異同を確認した。また、複数の校長が共通して果たしている役割を抽出・グルーピングした。次に、SBCD およびカリキュラム・マネジメントにおいて校長が果たしている複数の役割の関連性を検討して、モデルとして表現した。なお、これらの分析においては、主に研究代表者がそれを担い、研究分担者が結果の妥当性を確認した。両者の判断が異なる場合は、インタビューの元データを再度読み込み、協議により、分析結果を確定させた。

(4) カリキュラム・マネジメントを推進する校長のためのポートフォリオの開発と評価

上記 (1) ~ (3) の取り組みから導き出された知見をふまえて、「カリキュラム・マネジメントを推進する校長のためのポートフォリオ（試案）」を開発した。ポートフォリオ（試案）には、校長が果たす役割についての解説やその進捗状況を確認したり構想したりするワークシートを含む小冊子を収録することとし、その内容や形式を小学校と中学校の校長、合計 11 名に評価してもらった。内容については、「役立ちそう」「少し役立ちそう」「あまり役立ちそうにない」「役立ちそうにない」の 4 段階で評価してもらうとともに、「よかった点」や「改善した方がよい点」を自由記述で回答してもらった。そのほか、形式についても「見やすい」「少し見やすい」「あまり見やすくない」「見にくい」の 4 段階で評価してもらい、あわせて「よかった点」や「改善した方がよい点」について自由記述で回答してもらった。これらの評価結果をもとに、ポートフォリオの内容と形式について検討を行い、改訂作業を経て、完成版を作成・印刷した。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

①カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割モデルの開発

上記 3 (3) で示した分析を経て、カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割を図 2 のようにモデル化した。このモデルでは、SBCD も視野に入れつつカリキュラム・マネジメントで校長が果たす役割が示されている。また、校長が果たす 8 つの役割間の関連性も示されており、全体像を把握することができる。また、「リソースの確保と活用」など校長が果たす役割が学校外に及ぶことはこれまで指摘されていたが、本研究を通じて、学校外において果たしている役割が具体化され、さらには、それが学校内における役割とも連続性をもっていることが確認された。

②カリキュラム・マネジメントを推進する校長のためのポートフォリオの開発

上記 3 (4) で示した手順を経て、「カリキュラム・マネジメントを推進する校長のためのポートフォリオーカリキュラム開発の充実のためにー」が開発された。開発

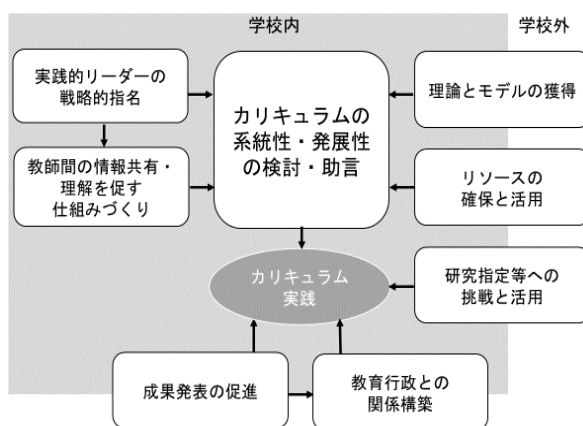


図 2 本研究を通じて開発されたモデル

されたポートフォリオは、図3の通りである。このポートフォリオには、カリキュラム・マネジメントの軌跡、具体的には各種資料等をおさめることができるよう、クリアポケットが付けられている。また、ポートフォリオの使い方、カリキュラム・マネジメントを推進する際に校長に求められる役割についての解説と進捗状況をチェックしたり、さらなるアクションを構想したりするためのワークシート、校長として果たした役割についての自己評価するためのワークシートから構成される小冊子（全28ページ）がおさめられている。カリキュラム・マネジメントを推進する際に校長に求められる役割についての解説は、図2に示した8つの役割を視点としてまとめられている。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

上記(1)で示した本研究の成果は、カリキュラム研究および教育工学研究における学術的意義があると考えられる。まず、本研究を通じて、カリキュラム・マネジメントにおける校長の役割についてその全体像や役割間の関連性を示すことができた。また、そうした知見にもとづいて、今後のカリキュラム・マネジメントの推進に資するツールとしてポートフォリオを開発することができた。こうした意味において、カリキュラム・マネジメントに対する教育工学的なアプローチにもとづく研究として位置づけることができる。また、本研究を通じて開発されたポートフォリオは小学校や中学校の校長に配布しており、研究知見の学校現場への還元という意味において、社会的意義もあるものと考えられる。

(3) 今後の展望

本研究をさらに発展させるためには、まず、本ポートフォリオの活用について、その実態を把握することが求められる。また、それにより各校のカリキュラム・マネジメントが充実したのかどうかという点について把握、検討することも必要となろう。さらには、本ポートフォリオを用いた研修の開発についても、今後のさらなる研究の展望として挙げるができる。

【引用・参考文献】

- 木原俊行（2009）「7 カリキュラム開発におけるリーダーシップグループの役割モデル」木原俊行・矢野裕俊・森久佳（2009）『学校を基盤とするカリキュラム開発におけるリーダーシップグループの役割のモデル化』平成18年度～20年度科学研究費補助金研究成果報告書，pp. 69-72
- 島田希・木原俊行（2018）「学校を基盤としたカリキュラム開発に資する学校長の学びの特徴」『人文研究（大阪市立大学大学院文学研究科紀要）』第69巻，pp. 21-39
- 島田希・木原俊行（2019）「学校を基盤としたカリキュラム開発における管理的リーダーの役割の多様性ーカリキュラム・リーダーシップ論を分析枠組みとしてー」『人文研究（大阪市立大学大学院文学研究科紀要）』第70巻，pp. 23-41



図3 本研究を通じて開発されたポートフォリオ

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 島田希、木原俊行	4. 巻 30
2. 論文標題 学校を基盤としたカリキュラム開発における 校長の役割のモデル化 カリキュラム・リーダーシップ論を分析の視点として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 カリキュラム研究（カリキュラム学会）	6. 最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 木原俊行、島田希	4. 巻 69
2. 論文標題 学校を基盤としたカリキュラム開発に資する学校園長の役割と学びの実態 - ある地域の幼稚園小中高等学校のリーダーに対する質問紙調査の結果から -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要（総合教育科学）	6. 最初と最後の頁 119-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32287/TD00031790	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 島田希、木原俊行	4. 巻 8
2. 論文標題 英国の小学校長が学校を基盤としたカリキュラム開発において果たす役割とその特徴－カリキュラム・リーダーシップ論を分析の視点として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪市立大学教育学会 教育学論集	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 島田希、木原俊行	4. 巻 70
2. 論文標題 学校を基盤としたカリキュラム開発における管理的リーダーの役割の多様性 - カリキュラム・リーダーシップ論を分析枠組みとして -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪市立大学大学院文学研究科紀要人文研究	6. 最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24544/ocu.20190404-013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 島田希、木原俊行	4. 巻 69
2. 論文標題 学校を基盤としたカリキュラム開発に資する学校長の学びの特徴 - 3つのケースの比較を通じて -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大阪市立大学大学院文学研究科紀要人文研究	6. 最初と最後の頁 21-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24544/ocu.20180412-007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 島田希・木原俊行
2. 発表標題 学校を基盤としたカリキュラム開発における学校長の役割のモデル化
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第 31 回琉球大学 web 大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島田希、木原俊行
2. 発表標題 学校を基盤としたカリキュラム開発における学校長のリーダーシップの実態 - 英国の小学校長を対象とした事例研究を通じて -
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木原俊行、島田希
2. 発表標題 学校を基盤としたカリキュラム開発に資する学校長の役割と学びの実態 - ある地域の幼稚園小中高等学校のリーダーに対する質問紙調査の結果から -
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田希、木原俊行
2. 発表標題 英国の小学校長が学校を基盤としたカリキュラム開発において果たす役割とその特徴 - カリキュラム・リーダーシップ論を分析の視点として -
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島田希、木原俊行
2. 発表標題 学校を基盤としたカリキュラム開発に資する学校長の役割と学びについての理論的検討
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第28回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 高橋純、堀田龍也、野中陽一、川上真哉、佐藤正寿、大杉住子、大村龍太郎、清久利和、木原俊行、小柳和喜雄、佐藤和紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 228
3. 書名 教育方法とカリキュラム・マネジメント	

1. 著者名 吉崎静夫、村川雅弘、木原俊行、姫野完治、浅田匡、永田智子、田口真奈、田村知子、島田希、有本昌弘、田中博之、深見俊崇	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 214
3. 書名 授業研究のフロンティア	

1. 著者名 新井保幸、佐藤千津、佐藤学、高野和子、早坂めぐみ、三石初雄、山崎準二、木原俊行ほか98名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 418
3. 書名 教師教育研究ハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	木原 俊行 (KIHARA Toshiyuki) (40231287)	大阪教育大学・連合教職実践研究科・教授 (14403)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------